



# 昭和小だより

文京区立昭和小学校

No. 5

令和元年9月2日

校長 杉本 謙

## 2学期も子供たちの成長を目指して

校長 杉本 謙

本日、昭和小学校に元気な子供たちの声が戻ってまいりました。今年の夏休みは、子供たちにとって有意義だったでしょうか。

さて、来年の7月24日に東京オリンピックの開会式が行われ、待ちに待った大会が始まります。その1年前にあたる7月24日に準備状況の視察に来られた国際オリンピック協会のトーマス・バッハ会長が、「これまでのオリンピック開催都市の中で、開催1年前において、今の東京ほど準備ができていく都市を見たことがありません。」と話されていました。競技会場の準備、首都高速の利用を制限した実証実験などの様々な取組が計画的に行われています。このことが評価されて、このような言葉をいただけたのでしょう。日本では、当たり前のように行っている準備も、世界から見ると大変素晴らしいことであり、そこに携わる方々の懸命の努力の成果であることが分かり、誇りに思います。

この2学期には、運動会や学習発表会など行事がたくさんあります。子供たちはこれらの行事に向けて準備を進めていきます。そこには、計画を立て、練習をし、修正を加え、本番を迎えるという流れがあります。オリンピック・パラリンピックとは規模

こそ違いますが、子供たち一人一人が、真剣に取り組むという点においては同じことと言えます。

ところで、現在公開中の映画に「風をつかまえた少年」があります。アフリカの馬拉ウィという国の少年がいくつもの困難を乗り越えながら、「家族や村を救う」という夢を実現するノンフィクションの作品です。絶対に成し遂げるといふ強い意志を持ち続けることの大切さを教えてくれる映画でした。この映画を見て、こんな言葉を思い出しました「できないと思っている人からは、何も生まれない。できると思う人から何かが生まれる。できると思ったその時から、何かを生み出す可能性が芽生え始めている。」

学校生活や行事を通して、昭和小学校の子供たちには、オリンピック・パラリンピックのように「みんなと協力して努力し、よりよいものを創り上げる力」、少年のように「できると信じ、困難を乗り越えて努力する力強さ」を、教職員が心を一つにして育成していきたいと思えます。



暑さに負けず、  
校庭で育った茄子

### ～教室の窓から～

音楽専科 萩原 志乃

「歌が上手に歌えるようになって嬉しい。」「みんなの前で発表するのが楽しみ。」「今日の休み時間は音楽室で練習ができますか。」これは1学期に児童から出てきた言葉です。子供達の前向きで意欲にあふれた言葉を聞くと、とても嬉しくなります。昭和小学校では、4年生から6年生までの間で学年別に鼓笛隊を運営しており、演奏することの楽しさや難しさ、学年全員で一つの音楽を作り上げる素晴らしさを1年間通して体験しながら学んでいます。自分一人だけでは完結しない活動の中で、よりよいものを目指し、協力し合って頑張る子供達の姿が見られます。すぐに上手くいく経験だけではなく、長い時間をかけてじっくりと取組み、時には悔しい思いをしたり試行錯誤したりしていくなかで、強くしなやかで優しい心が成長していくのだと感じています。2学期は、鼓笛では交通安全パレードや運動会、学校全体では学習発表会で音楽の発表の機会があります。子供達の日々の頑張りの成果を是非ご覧いただきたいと思えます。最後になりますが、保護者の皆様や地域の皆様の日頃の教育活動へのご理解ご協力に心から感謝いたしますとともに、今後も子供達の活動を温かく見守っていただければ幸いです。

